

事務所通信 リソース

1月号 VOL. 43

税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : cyuou@csk-i.com



明けましておめでとうございます。

今年は午(馬)年。家畜の中でも知能が高い馬は、日頃から身の回りの世話をしてくれる愛情に溢れた人に対して絶大な信頼を寄せ、その人の顔を生涯忘れないのだとか。

何かと世知辛い世の中ですが、馬の義理堅さを見習って周囲の人たちへの感謝を忘れない一年にしたいものです。

新年あけましておめでとうございます

昨年もフィリピンや伊豆大島の台風災害等、大きな自然災害が発生いたしました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りすると共に、被害に遭われた方の一日も早い復興を願っております。当事務所の役職員もわずかですが、お力になれるよう寄付をさせていただきました。

私達はこれらの自然災害はもはや突発的に発生するものではなく、いつでもどこでも起こり得るものだという覚悟で備えていくことが大事だと思います。

企業も生物と同様にその自身の能力だけでなく、とりまく外界=環境の状態によって生き残り成長するのか、あるいは衰退し消滅してしまうのが決定されます。

しかし、環境はただ与えられる宿命なのでしょうか。能力次第では自分自身がその環境に適応し変化することも、自身に適した環境に移動することも、又時には環境そのものを変えることも可能なのではないのでしょうか。環境も又本人次第ということがいえるのではないのでしょうか。

自然災害ですら自分自身の能力次第で対応できるかもしれないとしたら、まして仕事の上での重要な環境である得意先や銀行や従業員(経営者)などは全て自分達的能力で対応できるのかもしれませんが。

「好況よし、不況も又これよし」と松下幸之助は言いました。経営能力を高めると共に、環境に適応し変化する能力を高めていきたいものだと思います。

中央総合会計もさらにお客様の発展・成長のお力になれるよう、変わり続けていきたいと思っております。

旭川の寒さにも雪の多さにも是非対応して、この冬を楽しんでお過ごし下さい。

本年が皆様にとって良い年になることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

税理士法人 中央総合会計
代表税理士 井内 敏樹

支店を出したら法人住民税はどうなるの？

住宅会社の経営者から、支店を出そうと考えているのですが、その場合、均等割はどのように納付するのでしょうか？という質問をいただきました。

今回は本店がA県B市にあり、支店を同じA県のC市に出すケースになります。

まず、法人は法人住民税を納める必要があります。

法人住民税とは今回の場合、県民税や市民税となります。この法人住民税には、利益に関係なく会社の資本金や従業員数に応じて税額が決まる「均等割」と、法人税の額に税率を掛けて計算する「法人税割」というものがあります。今回の均等割は、本店と支店は同じ県内ですから、A県にのみ県民税の均等割を納めることとなります。また、資本金や従業員数に変わりがなければ、納付額が増えることはありません。しかし、市税の均等割は市町村がB市とC市で異なるため、本店のあるB市と新たに支店を出すC市のそれぞれに納める必要があります。仮に県も異なるところに支店を出した場合には、新たに支店を出す県と市の両方に均等割が発生します。

次に法人税額に応じて負担する「法人税割」についてですが、こちらは本店と支店に分割して納めることとなります。分割の基準は、主に事務所数や従業員数となります。なお、東京都二十三区内については、都の特例として都民税と区民税の二つをあわせて都民税として納めることとなります。



【馬の視野を持って邁進しましょう！】

今年の干支である「午」を動物に当てはめると「馬」になります。馬にちなんだ故事ことわざはいくつもありますが、座右の銘にあげる人が多い故事成語といえば「人間万事塞翁が馬」でしょう。幸せと不幸せは予測のしようがないというたとえで、だから目の前のことに一喜一憂しても仕方ないというわけです。せっかくなので語源をご紹介します。

ある老人が大事にしていた馬が逃げてしまい、気の毒に思った近所の人々が老人をなぐさめると「これが不幸とは限らない」と平然としています。しばらくして逃げ出した馬が立派な馬を連れて帰ってきたので近所の人がお祝いに行くと、今度は「これが幸福とは限らない」と老人は言います。息子がその馬で落馬して骨折したときも、老人はお見舞いに来てくれた近所の人にまたしても「これが不幸とは限らない」と言うのです。1年後、大きな戦争が起きました。大勢の若者が犠牲になった中、老人の息子は無事でした。落馬による骨折で足を悪くしたので兵役を免れたのです。ただ、これが幸福とも限りません。

こんな実話もあります。小さい頃から「点描」(小さな点で作品を描く画法)で絵を描いていたフィル・ハンセン少年は、点描のやりすぎで手が震える病気になり、思うような「点」が描けなくなってしまいました。そのため泣く泣くサラリーマンになりました。しかし、どうしても芸術家になる夢をあきらめきれなかったフィルはある日、手の震えに任せた「点」のようなもので見事な作品を描き上げました。X線技師として働きながら、今ではマルチメディアアーティストとしても活躍しているフィルは言います。

「制約があるほうが創造力を発揮できる」と。

ところで、馬の瞳孔は横長で、顔の左右に目がついているので視野は350度にも及びます。真後ろ以外を見渡せる馬のようにはいかないとしても、できるだけ広い視野を持って商売にのぞみたいものですね。

人生、何が幸いするかわかりません。
目の前の小さなことに一喜一憂せず今年も邁進していきましょう！

